報恩謝德

渡邊泰深

私共は見るもの聞くもの觸るゝ物に對し慾心絶ゆる間もなく、只貪慾の情念の外に何もなく、之れが爲に食ひ、之れが爲に着、之れが爲に住ひ、之れが爲に働き、人生の九分九厘は貪りの奴隷となつて過ごします、誠にはかない情けない、愍むべき底下の凡夫であります、私共は何故慾心が去らぬのでせう、例へさることは困難と致しましてもせめては一日の中一時間なりとも淨い高い聖賢のやうな情念になることが出來ぬのでせうか、高僧智識と後の世に崇められた往昔の方々も初めは私共同樣な慾心の深い遇痴の凡夫でありましたと存じます、同じ末法といふ濁世に生れそして同じ國土、同じ境遇、同じ機編の人となつて、何故かやうに天地の隔てがあるでありませうか、諸經中王最爲第一の法華經を信ずるものは吃度人間の中でも最爲第一とならねばならぬ筈です、私は堅く信じます、聖祖は必ず其の道を明に私共凡夫に御示し遊ばされたとを『凡夫にてたはせば慾心も起り候か』嗚呼聖祖は私共の淺墓な慾心根を愍れと御思召して慾心の起るのも尤もぢやと深い御慈悲を垂れさせ給ひ私共の罪惡を御寛容下されましたこの大同情の御詞を蒙りました丈けで此上もない滿足、この上ない歡びの誠意を捧げねばなりません。罪の深い私共凡夫に大同情を注かるのみでなく、私共を一足飛に聖祖同樣の高い境界に導いて下さるので、世之れ程の慈悲深い救ひ主は外にはありません、私どもの慾の深いのは歎かわしう存じますが、この慾の凡夫が其のまゝ佛になれる道を御示し下された事故何を歎くに及ひません、寧ろ大に歡んで勇氣を起して一番奮ひ起たねはならぬ筈です、『即慾を捨てずして佛になる道こそ候へ』と慥かな御證明を受けたからには最早慾の凡夫ではなく、軈て佛の位を紹ぐべき大切な佛の御子でありますかるが故に自分の起居振舞から辭つ

さては心懸等も自から改め、父母師匠たる聖祖の御名に汚れをかけ申さぬやう致さねばありません私共たろそかあ者は御恩や御慈悲を蒙つて居りますと、初めは其の御慈思に感激して一心に御報恩の御任致しまするが、嫻れるに從ひ月日のたつと俱に何時しか例の我が儘勝手が起つて參り、遂には小言を言つたり屁理屈を並べて不平など洩したりするやうになります、情の篤い人で母親など、口諍ひする者があるのもつまり親の恩に嫻れるので其の根元を質せば依然孝養の念は變らぬのです、されば私共はこの御高恩が大に身に感じ深く泌み迄んだからには月日が經過ばとて決して御恩に嫻れて疎情に思つてはありません、益々御給仕の志を勵し御恩の爲め身を粉にして働かねば濟みませぬ、そして朝に夕に聖祖の前に罷出で自分が慾心の深い凡夫である事其凡夫が大慈悲の御力で救はれる、從つて聖祖の手に救はれた輕からぬ身であるからには佛子としての務をなさねばならぬ事等を心の底から申し陳べて少しも詐り飾ること

あく、日々の不如法の事ゞも併せて懺悔し、仰いで聖祖の御姿を拜しましたならば其の時の私共の心の嬉しさは何んとも譬へ樣はありません、此の清らかあ美しい心を常に持つと何處に身體は居ても私共の眼にアリ〳〵と御姿を拜する事が出來て聖祖の御前に參たと同樣な思が致します、理屈や種々の法門談義を學んで身に守るよりいと容易い所の妙法五時の御題目を唱へ御聖祖の前にゐるといふ決心が第一であります、それさへ忘れねば何事も怖ることなくまた自ら他に迷はされたり慾に心が動く樣な事は決してありません、何時も聖祖の御前に居る事を忘れてはそれが墮落の根元であると堅く信ずべきであります。南無妙法蓮華經！

我は本化の門下也

江原一夫

靜肅ある或夜、書齋に獨り祖傳を繙くの時、法の響と云ふか天地の聲と云はふか、吾が胸奥深く